学校図書館だより
９月号

令和5年９月
柏市立光ヶ丘中学校
柏市学校図書館指導員

二学期が始まりました。日中はまだ暑い日もありますが、朝晩は秋の気配を感じられるようになりました。秋は読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋などたくさんの楽しいことができる季節です。体育祭、文化祭などの行事もあり忙しい時期ですが、ほっとしたいときは学校図書館へどうぞ。いろいろな本をそろえてみなさんを待っています。

調べてみました！
体育祭・運動会のはじまり

体育祭・運動会とは、学校や会社、市や町などで、集団でおこなう運動の行事。参加者が交流して仲よくなること、スポーツに親しみ、からだを動かすことで健康についての意識を高めることなどを目的とする。記録をきそい合うことを目的とするスポーツ大会とはちがう。徒競走、障害物競走、リレーなどの陸上競技や、玉入れなどのゲーム、ダンスなどがある。外国ではあまりみられない日本独特の行事となっている。学校行事としての体育祭・運動会が普及したのは、1885（明治18）年に初代文部大臣、森有礼がおこなった兵式体操からとされている。日本では、近代学校制度が発達するにつれて、学校の体育祭・運動会として普及した。

参考資料：『総合百科事典ポプラディア第三版　2』　ポプラ社　2021年

◆学校図書館からお知らせ◆

・夏休み貸出の本は速やかに返却しましょう。返却ボックスも利用できます。

返却期限　　９月15日（金）

期限を延長しました。

・９/２１（木）より、昼休みは毎日開館します。
みなさんの来館をお待ちしています。

今月のおすすめ本

空を見上げて読んでみたい月が出てくる本

中秋の名月

旧暦の８月１５日の月のこと。
現在の暦では９～１０月頃にあたり、今年の中秋の名月は９月２９日、満月になります。ゆっくり夜空を見上げて、秋の気配を感じましょう。

『月のえくぼを見た男　麻田剛立』

鹿毛敏夫 著　関谷敏隆　画
くもん出版　＜289／カケ＞

「これがいつも見ていた月の表面か…？」反射望遠鏡の先に見えた月の地表面の光景に、剛立は言葉を失った。剛立がクレーターのようすをスケッチした図は、日本最古の月面観測図となった。江戸時代、幼少年期から日月食や天体の観測をつづけた剛立は、独学でケプラーの第三法則をも見つけていた。大坂（大阪）に天文塾“先事館”を開き、日本の近代天文学の礎となった麻田剛立の生涯を彼の生きた時代と支えた人びととのつながりの中で描く。

出典　ライブラリーサーチ

『山月記・李陵ほか』

中島敦 著　教育出版　＜913/ナカ＞

中島敦の短編小説。1942（昭和17）年に発表されたデビュー作品。詩人をめざした主人公李徴は、名声を得られないあせりから心傷つき苦しむうちに、姿がトラにかわってしまう。旧友に出会った李徴は自分の身の上をうちあけ、変身の原因となったおごり高ぶった心の反省を伝える。そして友人に妻子をたのみ、姿を消す。奇怪な変身の物語のなかに、人間の苦しみや優しさがえがかれている。

『『山月記』（さんげつき）』，
総合百科事典ポプラディア（Sagasokka!）より，（2023-07-19 閲覧）

『13ヵ月と13週と13日と満月の夜』

アレックス・シアラー 著　金原瑞人　訳
求龍堂　＜933／シア＞

12歳で一人っ子のカーリー、転校生のメレディスと親友になりたいのですが、なぜか素っ気ないメレディス。そんな時メレディスのおばあちゃんのグレースから重大な秘密を聞いてしまいます。なんとメレディスは魔女と魂が入れ替わっているというのです。メレディスを救うために残された時間は13ヵ月と13週と13日！カーリーは魔女を倒すことができるのでしょうか？

『月の立つ林で』

青山美智子著
ポプラ社　＜913／アオ＞

長年勤めた病院を辞めた元看護師、売れないながらも夢を諦めきれない芸人、娘や妻との関係の変化に寂しさを抱える二輪自動車整備士、親から離れて早く自立したいと願う女子高生、仕事が順調になるにつれ家族とのバランスに悩むアクセサリー作家。つまずいてばかりの日常の中、それぞれが耳にしたのはタケトリ・オキナという男性のポッドキャスト『ツキない話』だった。月に関する語りに心を寄せながら、彼ら自身も彼らの思いも満ち欠けを繰り返し、新しくてかけがえのない毎日を紡いでいく――。

出典　出版社ホームページ